

はじめに

幼稚園・保育園の乳幼児期は、人格形成の基礎づくりにおいて、最も重要な時期です。

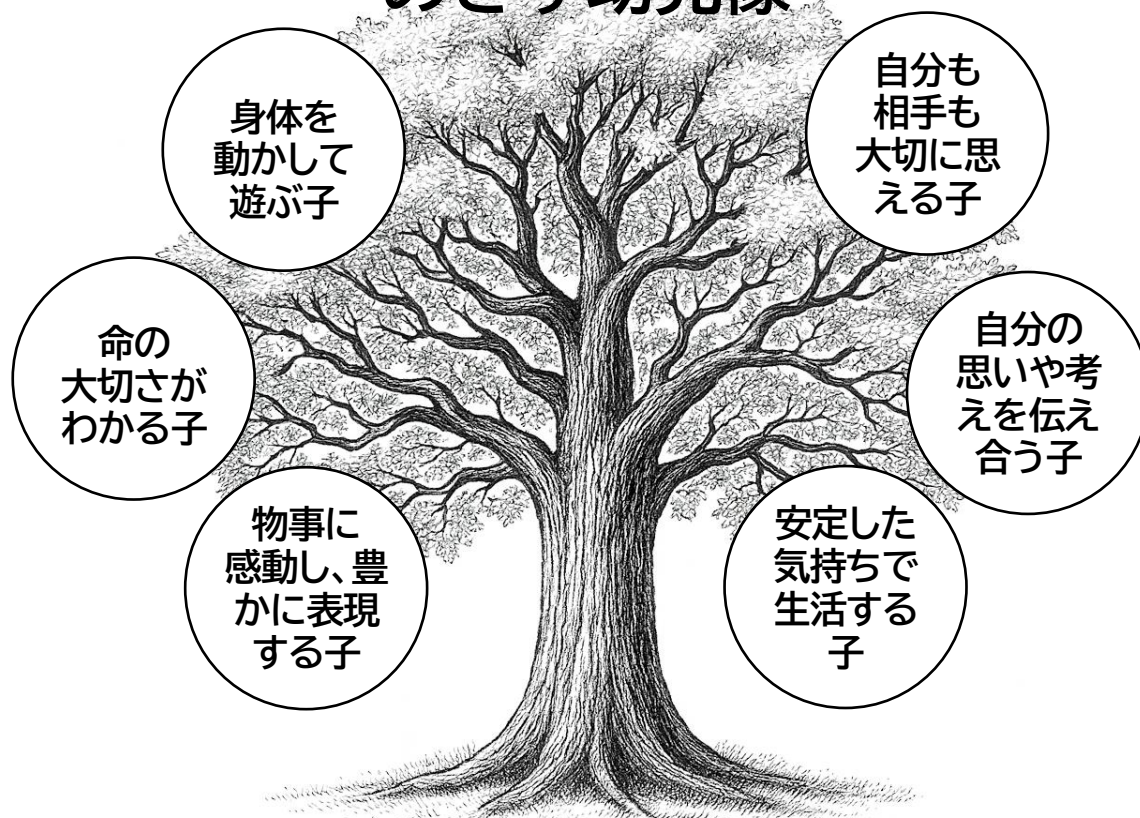
子どもたちが伸びやかに健やかに成長するために、また、就学前の子どもたちが同じ施設で教育・保育を受け、同じ小学校に就学していく一貫した教育ができるようにと、平成21年9月より、0歳から5歳までの乳幼児総合施設、幼保一体化施設『あさひ園』が誕生しました。

乳幼児教育・保育の充実、保護者のニーズに沿った運営、子育て相談や情報提供など、教育と福祉の力を合わせた、保育をめざし実践します。

【園の目標】

豊かな心情と、自ら考え行動しようとする力を育てる

めざす幼児像



遊びを通した学び

保育者や友だちとのかかわり

小・中学生、地域の方との交流

行事をはじめとした様々な体験

身近な自然や動植物とのふれあい

あさひ園は、このような教育・保育をします

「幼保一体化施設 あさひ園」では、同じ就学前の子どもである幼稚園児と保育園児を同一の施設で保育し、子どもたちの発達を踏まえた就学前教育を進めています。

教育、保育内容については、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を踏まえた上で、『生きる力』の基礎を培う「心情・意欲・態度」等を大切にしています。なかでも、あさひ園では、子どもたち一人一人の活動を理解し、遊びを中心としたプログラムで運営しています。どの年齢においても、遊びは、子どもにとって主体的な活動であり、遊びには人として成長していくためのあらゆる要素が含まれています。安定した環境の中でのびのびと遊ぶこと、異年齢児とのかかわりや身近な自然との触れ合いなどが十分経験できるようにし、友だちと遊ぶ楽しさを味わえるようにしていきます。また、善いことや悪いことの区別、人への思いやりや社会性を育てるなど、心の教育を行っています。子どもが自ら気づき、考えることを大切にしながら、集団生活を通して道徳性の芽生えを培うように指導していきます。そして、幼児期にふさわしい生活を創り、具体的な体験を通して、心と体の調和のとれた子どもを育てていきます。

あさひ園における『遊びを通した学び』とは

1 遊び＝学びの中心という考え方

あさひ園では、保育園の「生活を通した育ち」と幼稚園の「教育的な活動」を統合し、遊びの中で育つ力を最大化することを重視します。

遊びは、子どもにとって

自分で選ぶ ➡ 試す ➡ 失敗する ➡ もう一度挑戦する

という“主体的な学びのプロセス”そのものです。

2 遊びが育てる力

- 非認知能力（意欲・集中・自己調整）
夢中で遊ぶ経験が、粘り強さや自己コントロールを育てる。
「やってみたい」「もっとやりたい」という気持ちが学びの原動力になる。
- 社会性・協働性
友だちと交渉したり、役割を決めたり、トラブルを解決したり、
実際の人間関係の中でしか育たない力が自然に育つ。
- 創造性・思考力
ルールのある遊び、構成遊び、見立て遊びなどで、
「どうしたらうまくいくか」を自分たちで考える
- 身体の発達
戸外遊びや運動遊びで、基礎的な運動能力が育つ。

遊びの中で育つ意欲・協働・思考力は、就学後の学びの土台となります。